

【 会員投稿 】

ほあけぼちあ の つれづれのまま 『 A所長さんの裏話 』



馬電の所長さんは現在までに15代に及ぶ。菱電機器時代に一人の社長さんと一人の工場長さんがおられるので歴史的には17名のトップを引き継がれている。

ここで、何代目かの所長さんの裏話をご披露して、その人の人間らしさを思いだしてみよう。断じて酒の肴などにしようという魂胆はない。実名では少々差し障りも慮られるので、ここではAさんということにする。

想像できる皆さんには、顔姿を思い浮かべてお読みいただいた方が楽しんでいただけるかも知れない。

”群馬TV VTR収録でのほなし”

あるとき馬電が社内外から大変に注目されたことがあった。群馬TVからもお呼びがかかった。AさんへのスタジオでのVTR収録取材である。何かの縁でBさんとともにお供してお手伝いをした。

収録前にまずはお顔の化粧。若くて美形のお女性が、スタジオの片隅へきて丹念にドーラン塗りから仕上げていく。多少の緊張感があったと思われるが、元々Aさんお鼻とお口の間人並みよりは若干…に見えていたのがさらに…見えた気がした。その嬉しそうな表情、緩んだ頬に、お化粧するお女性はひよっとしたら戸惑っていたのかもしれない。

さて収録開始。聞き手のアナは何とさつきお化粧をしてくれていた女性。このあたり群馬TVらしい。「今日は、尾島町にある三菱電機群馬製作所の ”*** *ケ*” さんに ……」という紹介で始まった。

帰りの車の中。Aさん怒るまいことか怒るまいことか。「俺は ”*ケ*” じゃない！！。 ”*キ*” だ。 ”*ケ*” ジャクラブカーのホステスじゃないか！！」 (ご推察のとおり ** は、AとM である)

”車のはなし”

Aさんは、大変な車好き。乗る車も車にのるも。で二題。

その一。Aさんは当時太田東本町にあった松籟荘で単身赴任中であつた。ある土曜日。いつもは会社の車でご出勤であるが、この日は好天の休日とて自ら愛車を駆って工場へ向かった。407号線を南下高林の交差点への手前気持ちよくアクセルをふんでいた。折悪くパトカーのお咎めにあう。Q「勤め先は？」 A「三菱電機群馬製作所」 Q「職場の部署は？」 Aさん困った困った、何と答えたものか。何と答えたかは聞き忘れた。

その二。赴任まもなくのあるとき。Aさんの冠をいただいたゴルフコンペの第一回を太田双葉CCで某が幹事を務め行った。確か6～7組のコンペでAさんと幹事の某は1組目。スタート時間になっても一向にAさん現れない。フロントへ行って来られていないと。松籟荘へ電話したらもうとっくに出られていると。前もってお迎えに行きますと云うに例の車好き、否々俺の車で行くからいいと。で、道順と凡その時間を書いたメモをお渡ししておいた。事故でもなければよいがと。致しかたなく2組目から順次繰り上げスタート。だがしかし、到々我々1組目を残して皆スタートしてしまった。携帯もカーナビもない当時のこと、フロントへAさん来られたら途中のホールまで送ってもらおうを頼んでいるところへやっどご本人ご到着。あとで聞くに、大間々街道を山の神の信号を過ぎて藪塚の信号の間の三叉路に右方向に案内標識があるからというのを見過ぎて何と大間々まで行ってしまつて引き返してきたとのこと。ひと騒がせな。因みに、Aさんは常日頃何があつても納期は絶対に守れと厳しかった人である。

”松籟荘でのほなし”

松籟荘は、前にふれたように太田東本町の渡良瀬寮や東京電力太田営業所の田んぼを挟んだ西にあつた。今は全く面影を残していないが、どなたかのお屋敷か別宅であつたのか、純和風の瀟洒な平屋とお庭で造られていた。歴代の所長宿舎と接待・宴会・出張者の宿泊に使われていた。

東側の小庭には、3m角くらいのゴルフ練習用のケージがあつた。Aさんもゴルフは相当にお好き時々ここで調教に励んでおられた。あるとき、ケージの中からはものたりなくなり少し離れて打っていた。この気持ちはよく分かる。と、たまたま手がすべつた。ボールではなくクラブが飛んだ！！。

さすがのAさんも冷や汗がどつと出たと。大慌てに慌てて急いで外へ、今度はご本人が飛んでいった。

幸いにも東電まではいっておらず田んぼにあつたそう。

某がゴルフを始めた頃、ボールを打つときは無論、素振りするときでも、スウィング方向には絶対に人がいないことを確かると言われていた。Aさんも人がいないのは確かめていたのだが……。